

新体操 魂

第4号

2013 シーズン開幕号



ロングインタビュー

「夢の実現に向かって」野田光太郎(花園大学監督)

女子頂上決戦レポート

アジア選手権・ユニバーシアード代表決定競技会

新体操の醍醐味はこれだ!

国士舘大学演技会 & 町田市新体操連盟発表会



第6回アジア選手権大会および
第27回ユニバーシアード大会

新体操日本代表決定競技会

日本の舞姫・頂上決戦！

2013シーズンの開幕を飾った代表決定競技会は、新ルール対応演技のお披露目の意味ももっていた。今大会で顕著だったのは、より表現力が重視されるようになったため、選手たちの演技中の表情がじつじつとよくなっていたことだ。掲載した写真もなるべく表情のいいものを選んでみた。変化の見え始めた女子の新体操から今年は目が離せなくなりそうだ。

2013年4月20日(土)～21日(日)

会場：千葉ポートアリーナ

撮影：榊原嘉徳／大塚達也

取材・文／椎名桂子

1位：山口留奈(イオン)

総合得点：56.900

(C)Tatsuya OTSUKA



1種目目のフープでは、演技冒頭の足技でミス。前半はなかなかフープが手につかなかった。後半ではやっと盛り返し、表情や動きにも明るさがあったが、最後に再び落下。ポールはわずかにこぼしただけで、ほぼノーミスだったが、ジャズにのせての表現はまだこなしきれていない感が残った。

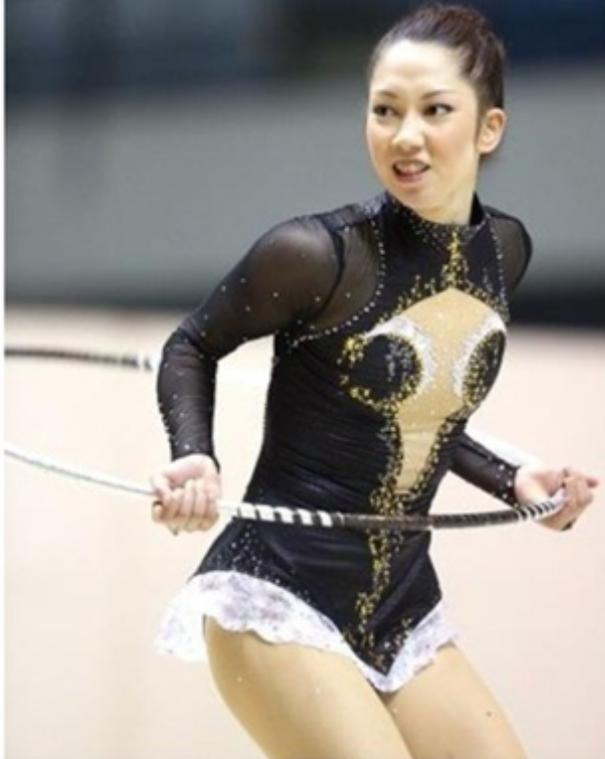
2日目になり、クラブではスピードと勢いのある曲で、ノリのよさを見せるが、背面での持ち替えての落下がもったいなかった。最終種目のリボンも、今シーズンから解禁となったボーカル入りの曲で、かなり大人の女を意識した作品だったが、こういうつやっぼさが出てくるにはもう少し時間がかかりそうだ。

山口にとっては、会心の演技と言える種目はなかっただろうが、終わってみればポール以外の3種目ではトップに立ち、代表選手の座を手にした。ミスはあっても逃げ切れるだけの演技構成を実施できるという点で、やはり現在の日本の第一人者である。

2位:穴久保璃子(イオン)

総合得点: 54.500

(C)Tatsuya OTSUKA



穴久保も、今大会ではどの種目にもミスが出てしまったが、すべてが新作だったにもかかわらず、どの作品も「表現」の面ではしっかり自分のものにできていたように思う。なんと言っても演じることを本人が楽しんでいるのが伝わってくる踊りっぷりは見ていて爽快ですらあった。

3位:大貫友梨亜(東京女子体育大学OG)

総合得点: 53.050

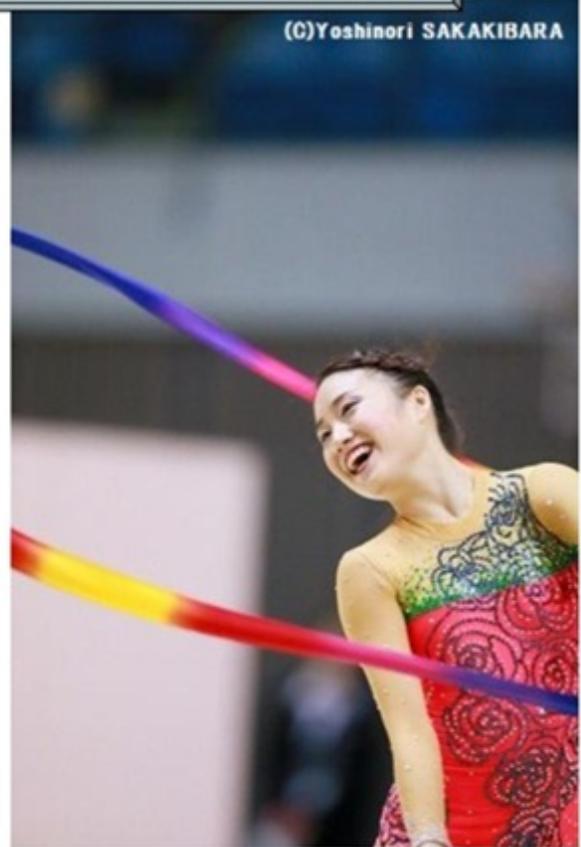
(C)Yoshinori SAKAKIBARA



フープでは力強さを、ポールでは凛とした美しさを、クラブでは巧みな手具操作を、そして、リボンでは「踊る楽しさ」をと、4種目それぞれに違う面を見せてくれた大貫は、全方位的な能力の平均値の高さでまだまだ日本のトップレベルに値する選手だ。とくに抒情的な演技を見せたポールは、やはり今の大会にしか見せられない境地だと感じられる名作だった。

4位:田中琴乃(日本女子体育大学)

(C)Yoshinori SAKAKIBARA



2006年の全日本ジュニア以来となった田中琴乃の個人演技は、観客をおおいに楽しませ、会場を沸かせた。ロシア仕込みの華やかな表現力は、個人でも健在。競技というよりもエンターティメントとしての新体操という雰囲気さえもあった。

遊びの動きや細かいリスクの多い演技構成ながらも、あぶなげなくノーミスで通す力は、やはり長年日本代表としてフェアリージャパンで培ってきたものなのだろう。

これからの個人でも活躍が期待されたが、この大会後に「競技から退く」と意思表示。今回の演技には、「今までの支えてもらったことへの感謝」の気持ちがこめられていたに違いない。

5位：三上真穂（東京女子体育大学）

(C)Yoshinori SAKAKIBARA



6位：中津裕美（東京女子体育大学OG）

(C)Yoshinori SAKAKIBARA



三上は、今大会でも持ち味であるパワフルでテクニカルな演技を見せ、ボール、リボンでは3位の得点を出していたが、クラブでのミス連発が惜しかった。

大学を卒業して、いったんは引退も考えたとい

う中津だが、再び「踊りたい！」という気持ちを取り戻したのだ、と思える演技だった。

独特の振付、選曲は好みが分かれそうではあるが、中津自身が「やりたいことをやっている」感じがとてもよかった。

7位：桑村美里（町田RG）

(C)Tatsuya OTSUKA



8位：猪又涼子（伊那西高等学校）



(C)Yoshinori SAKAKIBARA

ともに高校生の桑村と猪又は、今大会ですばらしい輝きを放っていた。どちらも小柄な選手だが、その分、動きのスピード感がすばらしかった。

フロア面をめいっぱい使った広がりを感じられる構成、音をしっかりととらえた「踊り感」のある演技で、これからの新体操をリードしていく存在になりそうな2人だ。

9位：小西夏生（流通経済大学）



10位：藤岡里沙乃（みやび新体操クラブ）



11位：中澤 歩（日本女子体育大学）



12位：宮本枝実（飛行船新体操クラブ）



明るい表情が魅力的だった小西はクラブが大ブレイクとなってしまったのが惜しかった。高校生ながら表現力には定評のある藤岡は、リボンで種目別4位の大健闘。中澤は、いっさいムダのない練り上げられた構成がすばらしく、表情豊かで表現力も感じられたが、いかんせん今大会ではミスが多く順位を下げてしまったのが残念だった。宮本は難度の明確さに加え、動きにしなやかさが出てきて表現が豊かになった。大学4年間でのもうひと伸びを期待したい。

13位：清水花菜（日本女子体育大学）



14位：佐々木南海（飛行船新体操クラブ）



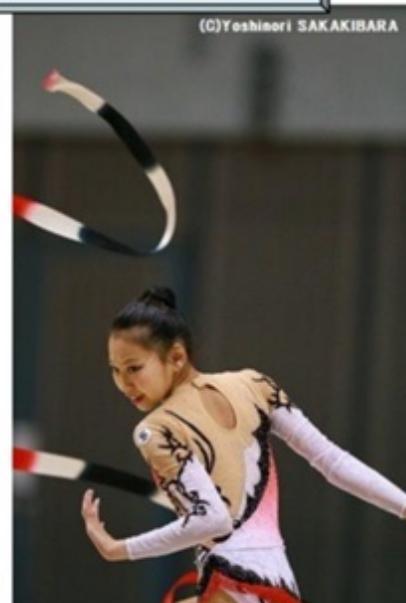
15位：三沢真希（日本女子体育大学）



16位：池ヶ谷晴香（アンジュ）



17位：鈴木志帆（サンシャインRG）



今大会では不調だった清水は、フープでは5位に入りながら他3種目でミスが多すぎた。本来の力を発揮すればこの位置にいる選手ではない。巻き返しを期待したい。佐々木は、ずい分と動きには表情が出てきた。あとは顔の表情が豊かになればぐっと魅力を増してきそうだ。

三沢は、音楽に合わせて動くことでは卓越した力を見せた。今大会ではやや点が伸び悩んだ感があるが、新ルールによって評価が高まりそうな選手だ。池ヶ谷も、演技の随所で今までにない柔らかい動きや表情が見られるようになった。鈴木はキシのよい動きと、ミスにも素早く反応できる反射神経の良さが素晴らしい。動きにもっと曲線が見えるようになるとさらによくなりそうだ。

今年こそ、
天下獲りを
狙います！

2013 花園大学、 「ドリカム体制」始動！

「力はあるが勝ちきれない」 2011～2012 の花園大学団体

シーズン前に、男子新体操ファンの間で、「今年はどこが強いと思う？」という話題になることはよくある。

そういうとき、ここ数年、必ず名前が挙がるのが「花園大学」だ。こと、団体は、2010年のジャパンで初の準優勝を勝ち取ってからというもの、毎年、「今年こそ、青森大の連覇を花園大が止めるのではないか？」と言われていた。

しかし。

2011年、インカレでは、青森大だけでなく国士舘大にも後れをとり3位。ジャパンでは、極めて微妙な勝負ではあったが、青森大を凌ぐことはできず2位。

2012年のインカレでも、青森大にかなり迫る演技を見せるも0.25差で2位。ジャパンこそは雪辱を！というときに、団体の主要メンバーが3人、シルク・ドゥ・ソレイユ入りのため休学という緊急事態に陥ってしまう。

それまでの「万年優勝候補」から一転して、2012年のジャパンは、「絶体絶命の花園大」として迎えることになったが、そこでも予選では、19,200をマークする見事な演技を見せる。決勝こそミスが出て、総合順位では6位に沈んでしまったが、たとえ主要メンバーが3人抜けても、予選で見たような演技ができてきた地力を、花園大が持っていることの証明はできた。

選手層の厚さは日本一？ 2013 花園大学の脅威

そして、2013年。

シーズン前から花園大の評判は高かった。まず、新入生がたくさん集まっている。それも、高校時代に活躍していた選手達の多くが今年、花園大に入学したのだ。

その花園大のいきのいい新入生達を見に行くつもりで4月14日の関西インカレに出かけてみた。

果たしてこの新入生達、かなり強力だった。関西インカレには、花園大は団体を2チーム出していたが、



Bチームはなんと、全員1年生。しかし、6人がそろってインターハイ経験者（井原1人＋神埼清明1人＋青森山田2人＋小林秀峰1人＋埼玉栄1人）という精鋭チームだったのだ。これは強くないわけがない。

個人でも、平野泰新が7位、宮前凌が8位。2人もまだミスのある完成度が高いとは言えない演技で、この順位につけた。夏に向けては、さらに伸びてくることは間違いない。

「今年の花園大は強い。」

それは予想というよりは確信、と言ってもいい。この新入生達を見ただけでもそう思うが、関西インカレで私を驚かせたのは、花園大の指導陣の顔ぶれだった。

花園大の監督は、強力なカリスマ性をもった選手が、そのまま監督になったような野田光太郎だ。現在の花園大が、毎年、多くの新入生で賑わっているのは、彼の力が大きい。選手としての野田の影響力は絶大で、「野田さんのように」とあこがれる選手は後を絶たない。その野田のもとで新体操がしたい、と生徒が集まってくるのは、当然だ。



衝撃の花園大学コーチ布陣 本気の天下獲り体制が完成！

ところが、今年度になって、花園大は野田監督の元に、2人のコーチを招いた。

その2人が、関西インカレのときは選手についていたのだが、その人選に、私は今年の、いやこれからの花園大の「本気」を感じた。

花園大は、万年優勝候補から本気で脱しようとしている。

今年こそ、獲りにいく！

これはそのための布陣だ。

花園大・新コーチの1人目は、田中直美だった。田中は、昨年まで青森山田高校、青森大でコーチをしていた。花園大にとってはいわば「敵方の将」だ。

その田中が、なぜ花園大のコーチに就任することになったのか？ さまざまな憶測も流れていたようだが、今回、野田監督と田中コーチに、その経緯を聞くことができた。

野田「直美さんに来てもらったのは、青森を辞めたと聞いたからです。青森大が現在のように強くなったのは、彼女のカも大きいと以前から思っていたので。

じつは数年前に青森山田高に依頼をして、直美さんには一度、花園大で指導してもらったこともあって、そのときの指導内容もよかったので、あの指導を継続してもらえればなあ、と思っていたんです。

ですから、青森を辞めるんだっただけで、こっちに来てほしいと、思って声をかけました。他のところからも誘いがあるようだったので、高校時代に直美さんが指導していた生徒もちょうど今、花園大に何人かいるので、知っている子もいるんだから、ぜひ花園大へ、と、猛烈アプローチしました。」

田中「青森を離れて、実家の長崎に帰り、しばらくはのんびり休憩してから次のことを考えようと思っていました。ところが、野田監督の熱心な誘いに誠意を感じたので、思った以上に短い休憩になってしまいました。でも、もう一度、男子新体操のために、自分のできるだけのことをやろうという気持ちにさせてくれた野田監督と花園大学には感謝しています。」



京都の街も、とても素敵で気に入ってしまった、と言う田中コーチ、まさに心機一転という明るい表情から、現在の充実ぶりが伝わってきた。

そして、もう1人。今年度、花園大のコーチに就任したのが横田健志だ。

最近になって男子新体操のファンになった人だと知らない名前かもしれない。が、じつは、指導者というか振付師としての彼は、「知る人ぞ知る」存在だった。

花園大学では野田光太郎と同期。野田が優勝した2003年ジャパンのプログラムには、個人選手として横田健志の名前がある。



大学卒業後は、井原市の臨時職員などをしながら、井原高校の指導にも関わっていた。私が男子新体操取材するようになってからこのかた、井原出身の選手達の口から、「横田さんがいっしょに考えてくれた」「横田さんに見てもらった」という言葉を何回も聞いた。はじめは、私もこの「横田」という人物が誰のことなのかわからなかった。

が、2年前の井原フェスティバルのときに長田監督に聞いて、彼がかつては花園大の選手で、今は井原で指導に携わっている人物であることを知った。そして、そのセンスが素晴らしいと長田監督はもちろん、選手達からも一目置かれているということもそのときに知ったのだ。

たとえば、大舌恭平、佐能諒一、小川晃平など、井



原の選手達の演技は、基本的な能力が高いことに加えて、音楽をうまく生かした非常に魅力的な振りが特徴だが、彼らの演技の陰には、横田健志の存在があったのだ。

長田監督をもってして、「彼のセンスはピカイチです。全面的に信頼しています。」と言わせていた横田。その横田が、井原ではなく、京都にいる。これは大きな驚きだった。

野田「横田くんとは、花園大の同級生ですとつき合いはありました。個人的には、以前からずっと花園大のコーチに来てほしくて誘っていたんですが、なかなかタイミングが合わなくて実現していなかったんですが、今回やっと来てもらったという感じです。

彼は、花大卒の選手の中でも一番センスがよくて、一番こだわりがあると思っているので、これから花園大を強くするには必要な人間だと思っていました。

しかも、情が厚くて、人間性もいいので、誰でも間違いないくらいうまくすることができる指導者だと思いません。彼のことは200%信頼していると言ってもいいです。

今回、直美さんと横田くんが入って、花園大の指導陣は3人体制になりましたが、それは松久みゆき先生の後押しがあってこそ、実現できたことです。



ほくも、この指導陣が揃えば、これ以上は何もいりません！10年大丈夫です！と言いきってしまいました。」

横田「現役のところ、同級生ではありますが、野田光太郎の演技を見て、涙出そうに感動したことがあるんです。あのとき、男子新体操って捨てたもんじゃないな、と思いました。その野田光太郎とチームを作っていくことは、やりがいがあると思うし、楽しいと思います。野田光太郎は、かなり変わったところもありますが、ほくはそれも含めて、彼のことが面白くてたまらないので、これから一緒にやっていけるのが本当に楽しみです。」

最強の仲間を得て、 「目指すのは激ウマ軍団です(笑)」



この日、3人そろって話を聞かせてもらったが、終始和やかな雰囲気だった。試合会場や練習で見ると、ときには近寄り難い空気をまとっていることもある野田光太郎も、じつに機嫌よく、楽しそうに寛いているのがわかった。

男子新体操の「芸術」の色を濃くした先駆者・野田光太郎。

男子新体操の流れを変えたと言われた時代の青森山田高校の指導に関わっていた田中直美。

井原高校黄金世代の活躍の陰で大きな役割を果たし続けてきた横田健志。

3人は、それぞれにお互いの能力を認め合っている。自分にはないものを相手は持っていることも分かっている。

だから、お互いを尊重する。だから、きっと3人でいても居心地がいいのだ。

とくに新しく指導陣となった田中と横田は、「新体操の判断において、野田光太郎を絶対的に信頼している」という。だから、その野田が目指す新体操を実現できるように、自分達は全力でサポートするのだ、という覚悟ができています。

このチームは、強力だ。



ときには「孤高の人」に見えることもあった野田光太郎が、自分の分身のように考え、動いてくれる仲間を得たのだ。これまで以上に、彼が動きやすくなったことは間違いない。そのことは、おそらく花園大の選手達にもおおいに影響するだろう。

花園大学は、強くなる。
ならないはずはない。

しかし。選手といい、指導者といい、いくらなんでも花園大に集めすぎなんじゃないのか？ そんな風にも思い、野田監督は、一体何を求めているのか？ と聞いてみた。

野田「最強のチーム、にしたい！」

それが答えだった。では、野田監督の思う「最強」とは？ インカレやジャパンで優勝することですか？ と聞いてみると、

野田「うーん、それとは少し違うかもしれない。とにかく激ウマ軍団にしたいんです。」



「激ウマ軍団」という言葉に、すかさず横田から「子どもかっ！」とつっこみが入る。た

しかに言葉は子どものようだが、野田が言いたいのは、「見ている人から、うまいっ！ と言われたい」というごくシンプルな欲求だった。

点数や順位がどうというのではなく、とにかく見る人の心が動くような、そんな問答無用のうまさ、のチームを、野田監督は本気で作ろうとしている。

野田「大学としては、もちろん優勝とか、そういう結果も求められていることはわかっています。だけど、それ以上に、自分の中では、めちゃくちゃいいものを作りたい！ という願望があって。今回のコーチ陣もその願望を叶えるためのもの、とも言えるかもしれません。」

「男性2人+女性1人」という意味で私は、今年の花園大の指導陣を「ドリカム体制」と名付けた。(かつての Dream come true はそうだったのだ)でも、それは男女の構成だけを指しているのではない。



Dream Come True

「夢を真実にする」ことも、この体制なら、きっとできる。そう思うから。

環境は整った

「今年は優勝するしかありません！」

最後に、3人に今シーズンの目標を聞いてみた。

横田「団体は優勝じゃないですか。みんなその気でやっているとしますし。いいメンバーといい監督がいるのだから、そこを狙っていくしかないでしょう。個人に関しては、自分としては4年生にはいい思いをさせてやりたいな、と思います。最後の年ですから、彼らを花園大に送り出してくれた高校の先生や親御さんのためにも結果を出してあげたいと思っています。」

田中「今シーズンの目標は、殻を破る！ ですかね。今はまだ選手達も自分の良さを知らないているようなところもあり、もったいないので、自分の良さに気づかせることが、まずは私の役目かな、と思っています。いろんな意味で、殻、破りたいですね。」

野田「優勝！ ですね。個人も団体も、チーム全体として上がってきているので、それしかないでしょう。なんとと言っても、コーチ陣がいいので、上がらないわけがない。もちろん、学生達は、意識も含め変わるべ

きところはまだ多いですが、このコーチ陣なら、それも変えることができるとわかっています。この環境でうまくならないわけではない。今年は優勝を狙います。」

シーズン開幕前らしく、威勢のいい言葉も聞かれたが、会話の中で野田監督はこんな言葉ももらしている。

「花大は、他のチームとは違うノリでもいいと思う。楽しくて、それで勝つこともできればいい。」

監督やっていて、一番うれしいのは、たとえ試合では負けても、花大の演技が一番よかった、と言われたり、こういう演技がやりたいから花大に来た、と言われたりしたときなので。せっかくなので、皆さんの選手が集まってくれているので、花大に来てよかった、と言わせたい。」

今年の花園大は、勝負にきている。
それは間違いない。

だが、究極のところでは求めているのは、何も「勝ち」だけではないのだ、と野田監督の言葉を聞いていて感じた。

松岡修造のような熱い言葉を吐くのは得意ではない野田監督だが、それでも彼にとっては、指導陣も選手達も、かけがえのない「仲間」なのだ。

そんな最高の仲間達と、天下獲りの大冒険に繰り出すんだ！ そんなワクワク感をみんなが持っていること。それが、今の花園大の最大の強みだ。

(取材・文/椎名桂子)



<写真：清水綾子>

2013 春 ～京都の陣～

注目度高まる関西勢をフューチャー!

第55回関西学生体操選手権大会 新体操の部

2013年4月14日(日) 於：花園大学

1位：竹内佑真（花園大学4年）



優勝杯奪還に向けて、竹内にとっては頼もしい援軍であると同時に、優勝を争う強力なライバルとなりそうなのが前田優樹だ。

昨年は、1年生ながらもインカレ6位、ジャパン14位と大活躍だった前田。高校時代から情感あふれる濃い演技をする選手だったが、2年生になっていざだんと演技に艶っぽさが増した。今年新しい構成にしたクラブは、とても斬新で文句なしにかっこいい！いよいよ選手としての新たな境地に踏み入りそうなのは、飛躍の年になりそうだ。

関西インカレを制したのは、「4年の意地」を見せた竹内佑真だった。華奢な印象の選手で、少年ぼさの残る軽やかな演技が魅力でもあったが、最終学年の今年は、力強さが垣間見えるようになった。

もとより手具操作の巧みさには定評があり、かなりリスクな技もさくっと決めてしまう。さらに、1回ミスが出て臆せず大技に挑む根性と度胸がある。昨年の西日本インカレでは、廣庭捷平（福岡大学）が優勝し、花園大学は個人の優勝杯を失っている。果たして今年は奪還なるか？ 竹内にかかる期待は大きい。

2位：前田優樹（花園大学2年）



3位：細羽勇貴（花園大学2年）



去年の春、大学に入学したばかりのころの細羽は、まだ「最強井原団体」のキャプテンとしての重責を下ろした解放感が大きいように見えた。しかし、今年は大きく飛躍してくれそうだ。なんとと言っても、新作のスティックは観客を惹きつける力をもった作品だ。今シーズンから解禁になったスカット入りの曲で、他の選手にはない大きくてしなやかな動きが美しく、静かな中にも強い思いが感じられた。大学2年目の今年、大化けの予感大の選手だ。

西日本インカレでは、中京大のスーパールーキー・臼井優華の活躍が期待されるが、「ルーキーはここにもいる！」と存在感を見せたのがこの川西だ。インターハイでは個人3位の実績の持ち主だけに、1年生での関西インカレ4位デビューは想定内だろうか。

しかし、入学間もないことを思うと、驚きを隠せない。同志社大学というちょっと意外な進路も、彼の独自性を伸ばす上では正解だったのかもしれない。この先、どんな演技を見せてくれるのか楽しみだ。



4位：川西伸也（同志社大学1年）

木村は、ちょっとした動きにセンスが感じられ印象には残る選手なのだが、いかんせんミスしたときの崩れ方が大きい。去年はそれで痛い思いをしているが、大崩れなしにまとめた今大会ではこの順位に食い込んだ。リング、クラブのダンスフルな演技は、彼の持ち味をよく出せていたと思う。今シーズンはミスを最小限に抑えて、ぜひ有終の美を飾ってほしい。



5位：木村威一郎（花園大学4年）

6位：石井龍平（花園大学4年）



2年前に花園大学の練習を始めて見せてもらったときに、胸と肩のやわらかさで目をひいたのが、石井だった。男子選手ではなかなか出せない柔らかい線を出すことのできる稀有な素質の持ち主だが、当時の彼は無欲すぎる印象だった。それでも、3年になった昨年は、少し変化が見えて、ジャパンにも出場。4年での飛躍の足がかりはつかむことができた。五輪真弓の「恋人よ」を使ったクラブの演技は、今までになく濃く踊り上げる作品で印象に残る。石井の代名詞になりそうな作品なのでぜひ注目しておきたい。

7位、8位には花園大学のルーキーがそろって入った。平野は、リングとロープで落下があり、他の種目も投げ受けなどに不安定さは見受けられたが、高校時代から定評のあるクラブでは、さすがの演技を見せた。

7位：平野泰新（花園大学1年）



8位：宮前 凌（花園大学1年）



宮前は、1種目目のリングは気迫のこもったすばらしいノーミス演技だったが、他の種目ではミスや手具操作のぎこちなさが目立ってしまった。それでも、ずっと前から「花園大学で新体操をやる」と決めていたというだけあって、やる気、負けん気のある演技には好感がもてた。平野、宮前ともに高校時代は団体と兼任で、個人をつめて練習はしてきていないはずだ。

大学生になって、自己管理次第ではいくらかでも練習できる環境を手に入れたことで、2人がこれからの4年間で、どう開花していくのか。楽しみでたまらない。

今年から指導陣もすこぶる充実した花園大学には、「開花できる環境」はそろっている。だが、その花がどんな色、どんな形に咲くかを決めるのは、やはり本人でしかない。花園大学の選手達には、恵まれた環境にあまんじることなく、自分自身の目指す新体操をしっかりと定めて、まい進してほしい。

1位：安積佳澄（武庫川女子大学4年）



新ルール対応で、「芸術性重視」になった女子は、いかにも「踊り感」のある演技を見せた選手達が上位に集まった。

優勝した安積は、フープでは荘厳な曲にのせた雄大で迫力のある演技、ボールでは多彩なころがしてテクニックを見せつける「カルメン」を演じ、種目によってがらりと違う雰囲気演技を見せてくれた。

2位の勇元は、音楽とよく合った動きで、気持ちのいい演技をする選手。明るい曲のときははじけるような笑顔もチャームングで、クラブの「ビー、イタリアン！」はキレのよさが抜群だった。

3位の虎野は、動きも顔も表情豊かで「踊ろうとしている」意思がどの演技にもよく出ていた。種目によっては、手具操作にややぎこちなさも見えたが、大学生活はあと4年もある。熟練度が上がってきたときに、どんな演技を見せてくれるのか楽しみな選手だ。

そして、もう1人。「踊れる選手」という意味で、ピックアップしておきたいのが、5位の野淵芳子だ。この選手はとにかくフェットがすごい！まったく軸がぶれずに、すさまじいスピードで回る。

2位：勇元望愛 （武庫川女子大学2年）



そして動きのキレ、いつでも明るい表情が、なんともチャームングなのだ。とくにボールは、見ているほうも笑顔になってしまう幸せ感たまたよう演技だった。インカレでも、ぜひ頑張ってもらいたい選手だ。

3位：虎野絵実子 （同志社大学1年）



5位：野淵芳子 （広島女学院大学4年）



花園大学A

(高塚翔平・朝留涼太・一藤如月・大倉義貴・北原翔太・平岡健士・朝留光宏)
主要メンバーがごっそり抜けたあとの昨年ジャパンでも、予選では見事な演技を見せた花園大学。そのときのメンバーが5人残ったチームは、やはり今回も強かった。強力な1年生達の加入に刺激を受け、ますます伸びそうなチームだ。



花園大学B

(石川航大・久津間理仁・平岡貴士・前田夏樹・松元大和・三井所智也)
全員が1年生という若いチームだが、その能力の高さは折り紙つき。関西インカレでの彼らの演技は、Youtubeにアップされるやいなや、「強い、強すぎる」と話題沸騰中。花園大学黄金時代を築き上げる期待がもたれる頼もしい1年生たちだ。

西の団体女王・武庫川女子大学に期待!

武庫川女子大学A

(牧村早紀・仲村萌香・児玉愛・福井美紀・武藤茜・山本香織)
去年のジャパンでは、東女、日女にかなり迫っての3位という大健闘を見せた武庫川女子大学団体は、今年も女子の台風の目となりそうだ。関西インカレは、1週間後に控えたユニバーシアード代表決定競技会のリハーサル的な位置づけだったが、関西では断トツの力を見つけた。代表決定競技会では、2種目ともややミスが目立ち、武庫川女子としては不本意な結果だったかと思うが、2年生の多い若いチームだけに、のびしろは十分。関西インカレには、1年生を5人も含むBチームも出場しており、ますます今後期待できそうだ。



<撮影：清水綾子/取材・文：椎名桂子>



これぞ、



新体操の醍醐味ぞ



演技会&発表会Report!



2013/3/3
町田市
新体操発表会



2013/3/20
国士館大学
男子新体操部
演技発表会



第26回 町田市新体操発表会

2013年3月3日(日) 町田市立総合体育館

町田市新体操発表会は、町田RG競技部、一般部のほか同じ町田市で活動する南三小新体操クラブも参加して年に1回行われる大イベントだ。軽く4時間は超える長丁場の発表会だが、有名選手を数多く輩出している競技部の演技はもちろん、一般クラスの演技も年々レベルアップしていて、見応え十分のエンターテインメントになっている。

新ルールになり、表現力や踊り心が今まで以上に求められるようになってきたが、そういう力を育てるためには、なによりも「人前で踊ることが楽しい！」という経験をさせることが重要だと思われる。こういった楽しくてやりがいのある発表会を経験することで得られるものは少なくないのだ。

町田RGでは一般部だった子が、卒業してから高校の新体操部で活躍する例も最近増えてきたが、それも、この発表会で培った力があったからに違いない

「楽しくなければ新体操じゃない！」 毎年、そう感じさせてくれる発表会だ。



もりのクラス

指導：宮畑美知子
(練習日：月曜・水曜)



やまさきクラス

指導：豊住佳子
(練習日：月曜・金曜)



こがさかクラス

指導：村上知世
(練習日：火曜・木曜)



つるかわクラス

指導：夏井久子
(練習日：水曜・金曜)



つくしのクラス

指導：宮田 藍
(練習日：火曜・木曜)



たまがわクラス

指導：栗原 悠
(練習日：月曜・金曜)



町田RGでは、一般部での週2回練習にプラスして、小学生は育成クラス、中学生は中体連クラスに希望者を入れることができる。発表会ではこのクラスの演目が1つあるが、毎年素晴らしい演技を見せてくれる。選考はなく希望すれば入れるクラスでここまでやれるようになる、というところに町田RGの底力を感じる。



育成クラス



中体連クラス



競技部

指導：曾我部美佳
(年1回選考会あり)





山脇麻衣

この発表会が最後の演技となった



高浦涼名



濱田夏歩

南三小新体操クラブ

指導：廣田 泉

(練習日：月曜・木曜・土曜)



<撮影：清水綾子／取材・文：椎名桂子>

国士舘大学男子新体操部演技発表会

2013年3月20日（水） 鳥屋野総合体育館

新潟県の鳥屋野総合体育館で、ここ数年毎年3月に行われている国士舘大学男子新体操部の演技発表会は、毎年好評を博している。今年は、発売から10日で1500枚の前売りチケットが完売。演技会当日も体育館の外まで入場待ちの長い列ができるほどだった。

国士舘大学男子新体操部のほか地元新潟のクラブチーム、高校など女子の演技も織り交ぜつつの2時間近くの演技会となっている。国士舘大学は競技作品（個人・団体）のほかにも集団演技や長縄の演技を行い、おおいに観客を沸かせた。あまりの好評に、今年も次年度も同じ時期に開催されることがその場で決まったという。

新潟には男子新体操をやる環境がなかったが、この演技会をきっかけに男子新体操を始める子どもも出てきている。「男子新体操の普及」のための貴重な機会にもなっている演技会だ。

女子新体操クラブ演技





国士館大学男子新体操部演技







小谷笙平



富山可夢

弓田速未



斉藤剛大



集団演技



ゲスト：本庄千穂



演技会後には
体験教室も行いました。



<撮影：清水綾子／取材・文：椎名桂子>

新体操魂 第4号

<http://p.booklog.jp/book/71518>

2013/5/15 発行

著者：椎名桂子

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/rgkeikos/profile>

撮影：榊原嘉徳/大塚達也/清水綾子

表紙デザイン：小島杏奈

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/71518>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/71518>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ